事故防止のための食事介助マニュアル

＜介助のポイント＞
・利用者の身体状況（咀嚼（そしゃく）、消化機能など）や年齢、好みを配慮した献立、調理方法にする。
・利用者の食べる（飲み込む）ペースにあわせて介助し、誤嚥をさせない。
・利用者の意見を聞きながら介助する。
・介助者のそぶり、言葉使いに注意する。

＜準備する物＞
箸、スプーン、フォーク、ストロー、利用者用エプロン（タオル）、おしぼり、枕またはクッション、歯ブラシ、ガーグルベース（うがい用容器）

介助手順	留意事項
●食前の準備	
1. 排泄又はトイレの有無を確認し、食事をすることを話し了解を得る。	しっかり覚醒していることを確認する。
2. 姿勢を整える	1.ベッドをギャッチアップする場合約30°起こし、上半身を上げる。
	2.身体がずれないよう膝関節の下に枕（クッション）を入れ下半身を安定させる。
	3.首部を前屈させ誤嚥しにくい姿勢にする。
	4.片麻痺のある場合は、麻痺側の肩と上肢の下に枕を差し込み、やや上げる。
3. 手、口腔内を清潔にする	1.うがいできない利用者の場合、口腔内の粘りをとり、咀嚼しやすくする。
	2.義歯使用者は、きちんと装着してあるかどうか確認しておく。
4.食事をセットする	1.利用者から食事が見える位置にセットする。
	2.エプロン（タオル）を使用し、食べこぼしなどによるシーツや衣類の汚染を防ぐ。なお、エプロンを嫌がられる場合もあるため、着用前に意思を確認する。
●摂食の介助	1.献立を説明し、食べたい物の希望を聞きながら介助する。判断ができない利用者の場合、一口ずつ嚥下を確かめ、水分を交えながらすすめる。
	2.水分、汁物はむせやすいので少しずつ介助する。
	3.咀嚼しているときは、誤嚥の危険があるので、返事を求めるような話しかけをしてはならない。
	4.のどがゴロゴロいうようであれば中断して様子を見る。※ゴロゴロがとれない場合は、誤嚥の危険があるため看護師などに報告する。
	5.服薬があれば食事の最後に利用者が飲みやすい方法で（オブラートにくるむなど）介助する。
	6.食事の摂取量を確認しておく。
●食後の介助	
1. 口腔内の清拭	1.義歯をはずせる場合は洗い、はずせない場合などは、利用者にあった方法で（含嗽、歯ブラシなど）口腔内をきれいにする。
2. 安楽な体位にする	2.利用者の楽な体位にして（身体の下に挿入した枕をはずす（ギャッチベッドを元の高さに戻すなど）。休息ができるようにする。